

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270102171		
法人名	有限会社 協栄会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 桃源		
所在地	青森県青森市造道3丁目21-21		
自己評価作成日	令和3年7月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>看護職員を配置しており、重度化した際や緊急時、終末期の対応について、介護職員の不安・疑問等を解消できるよう、いつでも話し合いができる体制にしている。更に、インスリン施注者や胃瘻の方も受け入れ可能となっている。ご利用者には、過去に体験したことがある役割を担っていただき、失われかけた能力を再び引き出し、生活にハリができるように働きかけている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初、職員一同で考えた理念に地域密着型サービスの内容を踏まえた文言も盛り込み、作成している。事務所には理念を掲示し、ご利用者も職員も毎日を楽しく過ごせるよう、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から近隣住民と気軽に挨拶を交わしている。昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため、近隣住民と一緒に除雪をしたり、運営推進会議やゴミ拾い活動等、地域住民との関わりが少なかった。今年度は地域貢献とし、地域のゴミ拾いを実施しているほか、定期的に文書やホーム便りの送付等をして活動状況の報告を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験や実習生を受け入れ、認知症について学んでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため、運営推進会議の開催は控えてきた。2か月に1回、活動状況報告として、町内会長・町内婦人会会長・地域包括支援センター職員・家族代表・入居者代表等の委員へ報告書を送付し、疑問点や助言等を電話でやり取りし、サービス向上へつながるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課職員が電話でご利用者の状況確認をしたり、疑問な点は市に問い合わせている。困難事例等があれば随時相談し、アドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止対象となる具体的な行為を盛り込んだ「身体拘束、虐待防止マニュアル」を作成し、身体拘束は行わないというホームの方針を全職員が共有し、日々のケアを行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、ご家族に説明したうえで、同意を得て、理由・方法・経過観察等を記録に残す体制を整えている。今年度、名称を身体的拘束適正化・虐待防止委員会と改名し、指針に虐待防止について組み入れ、委員会と研修委員会が中心となり、勉強会等を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の実施や虐待の芽チェックリストの実施、虐待防止マニュアルを作成している。また、虐待防止のための業務カンファレンスやケアカンファレンスを積極的に行い、職員間で悩みを共有し、虐待へ発展しないような職場環境を整えるよう、日々努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々のカンファレンスを通し、権利擁護や制度について学べるよう、意識して問いかけをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約は文書と口頭による説明を行い、疑問点がないか、その都度確認し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口及び処理体制を掲載し、玄関にも掲示している。ご利用者の暮らしぶりや要望、受診状況等は、ご家族への手紙を記入して郵送で伝えており、ご家族面会時には意見や要望を聞けるように働きかけている。また、出された意見は管理者・職員で話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。また、ご意見箱も設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、話し合いの場を設け、意見交換できる場を設けている。業務の中でも随時職員同士で情報交換ができ、また、管理者に直接話ができるような環境を心がけている。出された意見を計画作成担当者が中心となってケアへ反映できるよう情報の共有を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	今年度からは、自己評価シートを使用し個人面談を実施している。向上心を持って仕事に取り組めるよう、目標を立てて業務に取り組んでもらっている。日常の業務の中でも、ステップアップできるような仕事を意識的に与え、成長できていることを伝えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織の中に研修委員会があり、ホームからも代表委員が参加している。昨年度は新型コロナウイルス感染予防のため、組織としての勉強会の実施はなかったが、今年度は勉強会を（新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で）オンライン等を活用して実施し、個々の職員がスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、外部との交流は控えてきたが、今後、状況が落ち着き次第、検討していく。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、ご本人・ご家族・各関係者から要望・不安・困っていることがないか情報を得ることにより、ご利用者の安心を確保するよう努めている。また、インテークや入居前アセスメントを使用し、聞き取った内容は記録して台帳にまとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に、ご利用者・ご家族・各関係者から要望・不安・困っていることがないか情報を得ることにより、ご利用者とご家族の安心と信頼関係を築くことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者やご家族、各関係者から聞き取りをして必要な支援を見極め、柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員がともに、喜怒哀楽を共有し、互いの理解を深めている。また、自立支援の観点に留意しながら、家事や掃除等を一緒にすることで、暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族にご利用者の状況等を報告している。新型コロナウイルス感染予防のため面会を制限しているため、オンラインでの面会機会を設けている。毎月会議を開いて管理者と職員間で情報を共有し、ご利用者とご家族の意向を取り入れて生活の質の向上に繋がるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴や日々の会話の中から、行きたい場所や馴染みの場所にお連れするよう努めている。また、面会時はゆっくりお話しできるよう居室にお連れしたり、お茶をお出ししていたが、コロナ感染予防のため、外出は控え、面会はリモートで行っている。面会できない状況が続く、手紙を書いたり、オンラインでの面会ができない方も3か月に1回は電話でご本人とご家族が交流できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みのご利用者と一緒にテーブルにしたり、一緒に食事作り等を行う工夫をしている。また、ご利用者が孤立しないように職員が間に入り、ご利用者同士で何気ない会話等ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等がある場合は、気軽に連絡していただくようご利用者ご家族に伝え、今までの関係を継続するよう努めている。また、退去先の関係者にもご利用者の状況やケア等を記載した情報提供書をお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話や日常の生活状況の中から、思いや暮らし方の希望等をユニット会議やミニカンファレンス等で協議し、管理者・職員間で共有している。その人らしく望む生活ができるよう、各担当者が生活歴やご本人への聞き取りを行い、3か月毎にケア目標を立て、実施につながるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者のこれまでのライフスタイルやサービス利用の経過等、ご家族や知人、関係機関等から情報収集し、記録(様式有)している。また、日々の生活の中から個人の価値観等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に情報収集をするとともに、できることや新たにできそうなことを日々の生活を通して発見・把握し、調理や掃除等の活動につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく生活できるよう、ご利用者ご家族、関係者、職員から情報収集するほか、日々のご利用者の生活状況から得た気づきや全職員の意見を参考にして、介護計画を作成している。モニタリングの際もご家族や全職員、各関係者から意見を収集している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別に記録している。また、毎月管理者・職員間で会議を開き、実践状況・気づき・工夫等を共有し、プランの見直しに活かすよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、状況確認しながらできる範囲でボランティア等の受け入れを行っている。現時点で外部と連携して多機能化に取り組むことは困難であるが、職員がその時々に必要なニーズに対応するよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、電話を活用して町内の役員等と意見交換を行っている。外部との交流ができるようになったら地域資源を活用した支援ができるように、情報交換等に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までの受診状況を把握するとともに、入居後の受診方針について確認している。ご家族にも可能な範囲で協力をお願いし、希望に沿った受診ができるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員(兼務含む)と連携を図っている。介護職員は看護職員に気軽に相談し、ご利用者が適切に受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はケア方法等を記録した情報提供書を提出し、安心して治療できるよう支援している。また、可能な限り医師からの説明をご家族・職員が同席して受け、情報共有できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員を配置しており、職員の不安・疑問等を解消できるようにその都度話し合いをしている。終末期の在り方については、入居時の段階でご家族と話し合いを行っているほか、状況に合わせて都度話し合いを行っている。必要に応じてチームが連携してケアへ取りかかれるよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、直ぐに管理者・看護職員に電話連絡できるように連絡網を作成している。また、マニュアルを作成し、全職員が日頃から不安にならないように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年2回、業者立ち合いのもと避難訓練と防災設備の点検を行っている。災害時、地区会長・民生委員等に災害時の協力をお願いしている。去年の8月に実際に隣家からのもらい火をしたが、近所の方々の協力もあり、全員無事に避難できた。また、災害時に備え、簡易ストーブ・卓上コンロ・燃料・懐中電灯・水・食料等を1週間分準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	受容する姿勢でケアに取り組んでいる。ご利用者の羞恥心や自尊心に配慮した声かけや言葉遣いを心がけており、気になることがあったら職員同士で注意しあっている。個人情報に関する書類は扉のついた場所に保管しており、広報誌への写真掲載については必ず同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者それぞれの力量に応じ、居室の様様替え、着替えの際の衣類準備、食べた・行きたいと話のあった時に外出をする等、自己決定を促す場面をつくり、意思表示できない場合は表情や仕草から読み取りながら、自己決定を促している。(外出についてはコロナ感染防止のため、現在はできる範囲で行っている。)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活歴を基本とし、一人ひとりのペースに合わせて生活できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性・好みを尊重し、衣服を選んだりしている。また、美容院や衣類等の購入に行きたい等の希望については、担当職員が積極的に働きかけ、外出支援等を行っていたが、コロナ感染予防のため、職員やご家族が代理で購入支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者からのリクエストを参考に献立を作成し、苦手な食材等を考慮して代替食も用意している。個々の能力や希望に合わせ、食材の下ごしらえや配膳・下膳等を行っていたが、ご利用者と共に生活していると感じる支援を心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立としている。水分摂取量が少ないご利用者に対しては、各自が好むジュースやゼリー、アイス、果物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせ、口腔内ケア及びや義歯洗浄を毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自身で排泄できないご利用者には排泄パターンの記録を取り、できるだけトイレで排泄できるよう支援をしている。居室で自立した排泄ができるよう、ポータブルトイレの設置を可能とし、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご家族の支援もあり、ヨーグルトやヤクルト、果物等を差し入れてもらっている。また、食後にトイレに誘導し、スムーズに排泄できるよう援助している。排便リズムを把握し、下剤や浣腸を適宜に使用しながら便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	個々の入浴習慣を把握し、体調に支障のない範囲で、希望に沿って入浴を楽しめるように支援している。ご利用者の羞恥心に配慮して、1対1の同性介護を基本としている。入浴を拒否する時は声がけを工夫したり、無理に勧めずに柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原因を探り、安心して眠れるよう、日中の活動を増やしたり、精神的に安定するように支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一包化し、名前や日時等を記入し、服薬前のダブルチェックと飲み込むまでの確認をしている。薬の変更時や注意が必要な薬が処方されたときは、看護師より観察するポイント・報告する事項について説明を行う体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量等を把握し、掃除・洗濯・米どぎ等の役割を持った生活支援をしている。生活歴・日々の関わりの中から、畑仕事得意な方には畑仕事を率先して行っていただいたり、お花が好きな方にはお花を育てていただいている。その他、裁縫・料理・茶道等得意なことを活かして、ご利用者が生き生きと生活できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿い、周辺の散歩や馴染みの場所への外出支援等に努めている。ご家族の行事への参加や自宅への外泊等、支援に努めていたが、コロナ感染防止のため、周辺の散歩やドライブ等、可能な範囲内の外出支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせ、買い物に出かけた際は使えるよう支援していたが、現在はコロナ感染予防のため、職員やご家族が代理で購入支援している。個人が希望する場合はご家族と相談のもと、可能な範囲でご利用者が金銭を所持・管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	3か月に1度は電話をする支援をするほか、年末には年賀状を作成し送る等している。ご家族から電話をいただいた際は、プライバシーに配慮しながら落ち着いて話ができる支援をしている。また、ご利用者の希望時に電話をかけられるようにする等、希望に合わせた支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の一角に椅子やソファ、テーブルコーナーを設置し、自由にくつろげるようにしている。各居室は冷暖房完備で、適宜確認して適切な環境を保てるように工夫している。また、居室で休まれる時の環境を考慮し、その都度室温や明るさ等にも配慮を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファを置いているほか、気の合ったご利用者同士が居室でゆったり過ごせるようにその都度椅子を運ぶ等している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物を持ってきていただき、生活環境の変化に少しでも早く馴染めるよう支援している。入居後も必要であれば、その都度ご家族と連絡を取り、心地よく過ごせる居室づくりを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活ができるように工夫している	廊下やトイレには手すりを取り付けており、階段の段鼻には赤いペンキを塗り、段差がはっきりとわかるようにしている。トイレがわかるように、「トイレ」ではなく馴染みのある「御手洗」の看板をつけたり、個々の能力に合わせ、ベッド・椅子の高さを調節しているほか、居室内に手すりを増設し、自立した生活ができるよう支援している。		